



次に、具体的種類について検討してみたい。基本6種（過去毎年かならず捕れた6種：田口、2015aより）とされていた種類のうち、今回初めてチョウトンボの捕獲がなされなかった。このトンボは、調査開始当初は東京電力一ヶ所のみでしか確認されなかった種であったが、その後2013年には5地点計9頭とほぼ臨海部全体にまで分布を広げていた。現在、もともと多く生息していた東京電力が本フォーラム離脱後どのようになっているか不明であるため、そこでの状態からその影響を推し量ることができない。ただ、本年度も目撃記録としては2地点3個体の報告があるため、今後に期待したい。

次に、2014年に急増したシオカラトンボはというと、2016年は226頭（前年265頭）とほぼ高止まりのままとなった。一方、2012年急増していったんは最優占種の地位を占めたショウジョウトンボはというと、40頭（前年47頭）と増加の気配は見られなかった。しかしながら、優占3種の3種目にあげられていたオオシオカラトンボについては、2012年わずか一桁の捕獲数にまで落ち込み、以後低迷して優占種と言える状況になくなっていった（田口、2016a）、今回の調査では合計20頭と久しぶりに二桁台にまで持ち直しを見せた。これにはSF高校0→9頭の躍進が大きく貢献してい

る。また、この2年間、8月に姿を消してしまったアカネ属についても、ネキトンボが4地点で計8頭捕獲されるなど、一部の種で復活を見せた。

その他にも、2013年以降のコシアキトンボ、新顔のオオヤマトンボの捕獲など、新しい動きが確認されている。また、本調査期間外ではあるが、設置3年目の貨物線の森で県の希少種であるヨツボシトンボも観察されている（田口、2016b）。本種は5～6月のトンボ種なので、もともと本調査の直接の結果にはあがらない種類だけに、ここに書きとどめておく。2015年8月の臨海部調査では、前述のように前年の現象をそのまま引き継いだ形であったが、2016年調査の結果はあきらかにその状況から脱しつつあることを示している。

2016年までの内陸部の新たな動向

2016年までの内陸2池の調査結果を表4に示した。まず三ツ池からだが、捕獲されたのは6種155頭で、前年の7種158頭と比べて大きな変化は見られなかった。ただ、前年この調査開始以来初めて捕獲されたコノシメトンボは今年度は捕獲されず、ショウジョウトンボも19→2頭と激減。昨年15→2頭と激減したチョウトンボも引き続き

2頭と回復の気配は見られなかった。しかし、当公園の片隅に設置された水田を中心に生息するオオシオカラトンボが、11→22頭と捕獲個体数を倍加させた。

一方、三ツ池と日頃対照的動向であった二ツ池はというと、前年2015年は7種40頭といままでになく少なかったが、今年度は一転して10種89頭と回復した。これには久しぶりに捕獲されたウチワヤンマだけでなく、前年度捕獲が途絶えたコフキトンボやリスアカネの捕獲が関係していた。とりわけリスアカネは地域的にも個体数が少ないが、過去この池で着実に観察できる種であることが報告されてきた（石川、1999；横浜市環境創造局・日本環境株式会社、2011）。本池は、当初の4年間は10→9→9→9種とほとんど捕獲種数の変化がなく、しかも都市の中で希少種の重要な避難場所となっていると言われる池だけに（田口・田口、2012）、今後も慎重な調査を要する。

表3 臨海部14年間の種類別捕獲状況（合計）

トンボの種類	調査年													
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
①シオカラトンボ	65	150	154	173	189	171	118	141	206	170	86	253	265	226
②ウスバキトンボ	63	122	179	229	231	105	418	125	81	128	116	95	62	182
③ショウジョウトンボ	16	42	57	46	81	72	104	69	146	234	91	69	47	40
④ギンヤンマ	3	8	24	4	17	11	11	9	9	7	6	8	5	8
⑤チョウトンボ		8	8	6	9	19	26	6	2	2	9	2	3	
⑥オオシオカラトンボ	2	5	2	15	14	26	38	55	12	7	8	2	3	20
⑦クロスジギンヤンマ		2								1		1	1	
⑧コシアキトンボ		1	2	6	1	1				3	3			1
⑨ナツアカネ	11	1	2							4				
⑩ノシメトンボ	42	1		4		1		3						
⑪コノシメトンボ	12	1		1		1			1					
⑫ネキトンボ	6	1		3	1	2	28	5	1		3			8
⑬アキアカネ	88		232	27			2	1	4	7	15			
⑭リスアカネ	1			1										
⑮ハラビロトンボ				8		1	1							
⑯マイコアカネ				1										
⑰マルタンヤンマ						1		1		2				
⑱ウチワヤンマ									1					
⑲オオヤマトンボ														1
個体数計	309	342	660	524	543	411	746	415	463	565	337	430	386	486
種類数	11	12	9	14	8	12	9	10	10	11	9	7	7	8
調査季節	9月	8月	8月	8月	8月	8月	8月	8月	8月	8月	8月	8月	8月	8月
調査地点数	5	10	9	10	10	10	10	9	10	9	8	10	10	10
アカネ属種数	6	4	2	6	1	3	2	3	3	2	2	0	0	1
アカネ属個体数	160	4	234	37	1	4	30	9	6	11	18	0	0	8

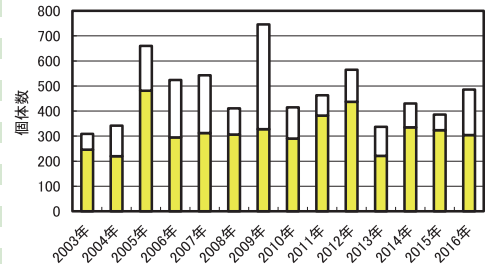
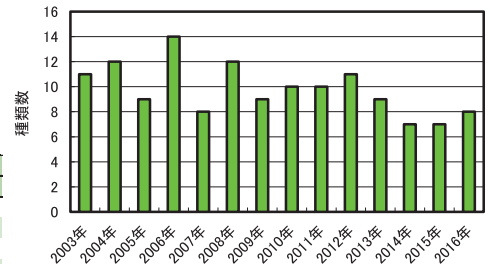


図1 臨海部14年間の捕獲種類数と個体数の推移
下図棒グラフの白部分はウスバキトンボ、黄部分はその他のトンボ種の個体数を示す。

表4 内陸部等の2016年までの本調査種類別捕獲状況

トンボの種類	三ツ池					二ツ池					高田池		SMS		東横フ		本牧		
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2016		
①シオカラトンボ	22	131	111	96	64	58	6	39	21	45	18	22	4	2	3	7	14	27	
②ウスバキトンボ	10	15	49	34	58	70			4		3	1	1		1	6	7	14	
③ショウジョウトンボ	3	4	23	22	19	2	10	3	7	4	2	8							
④ギンヤンマ	1	1	1				1	2	9	1	2	12					1	3	
⑤チョウトンボ	6	11	16	15	2	2	71	96	24	13	12	31							
⑥オオシオカラトンボ	30	20	26	11	11	22	4	6	1	1	3		2	4	1		1	9	
⑦クロスジギンヤンマ							1												
⑧コシアキトンボ	14	1					49	8	10	5	2	4		1					
⑨ナツアカネ																			
⑩ノシメトンボ																			
⑪コノシメトンボ					2					1									
⑫ネキトンボ																			
⑬アキアカネ	1																		
⑭リスアカネ							7	2	5	1		6							
⑮ハラビロトンボ																			
⑯マイコアカネ																			
⑰マルタンヤンマ																			
⑱ウチワヤンマ	1						2					1							
⑲オオヤマトンボ									1										
オニヤンマ		2			2	1													
アオヤンマ							1	1											
コフキトンボ								2	2	1		1							
個体数計	88	185	226	178	158	155	152	159	83	72	40	89	7	7	1	5	13	23	53
種類数	9	8	6	5	7	6	10	9	9	7	10	3	3	1	3	2	4	4	
アカネ属種数	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
アカネ属個体数	1	0	0	0	2	0	7	2	5	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0

